

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100502		
法人名	有限会社 アテネ		
事業所名	グループホームきんもくせい		
所在地	大分市大字下判田3795の1		
自己評価作成日	平成28年3月13日	評価結果市町村受理日	平成28年5月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=4490100502-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館 1F		
訪問調査日	平成28年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員全員が施設理念を念頭に置いて入居者一人ひとりがその人らしく安心して生活が出来る支援を常に心がけています。また思いや気持ちを大切に個々の希望に添えられる支援が出来るよう努めています。地域との関わりを重視し地区の朝市や散歩を通じ地域の人達とのふれあいを大切にしています。
年間を通じての行事には地域の方や家族の参加などを得て交流を深めることができています。また、ホームでの生活では、入居者様と共にレクリエーション等をする事により密な関係を気づき上げることが出来ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所時に管理者と職員が作り上げた理念は、3年の月日の中でしっかりと息づき、利用者の生活に良い形で反映され、安定した支援体制となって表出しています。「満たされる笑顔の介護」の理念のもと、利用者一人ひとりの目線に立ち、笑顔と気配りで介護サービスを提供する姿に、管理者を中心として、質の高いケアを実践していることが伺えます。また、地域密着型事業所として、地域との関わりを重視する中で、散歩や、地区で行われる朝市に出向いたり、マラソン好きな利用者と一緒に走ったりと地域の方々と接する機会を多く作ることも、施設の空気を災害時の地域の避難場所として利用して頂く等地域貢献も含め、高齢者福祉への寄与や地域との在り方等、今後の展開に大いに期待されます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームに出入りする方の目につきやすい所に掲示しており職員には、会議にて理念の確認と職員間での意識の共有を図っています。	法人の理念を継承し、事業所独自の理念及び職員個々の目標を定め、会議やカンファレンス等で適宜内容確認を行い、忘れないように留意しています。職員は「満たされる笑顔の介護」を日々の支援の中で常に意識しケアの実践に当たっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として生活できるように地区での朝市などを利用して地域の方と交流を図っています。また地区にある保育所との交流をつくり利用者様とのふれあいの場所を設けています。	地域での行事や催しごと(法人の夏祭り)への積極的な関与が、行事写真等で見てとれます。自治会に加入し情報交換を行い、地区の「朝市」では利用者も参加し交流を図っています。事業所の空地を地域の避難場所に指定する等関係構築に繋げています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを通じ認知症についての事例や取り組みの発表を行い情報発信や意見交換をし認知症になっても安心して暮らせる地域づくりに励んでいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じ入居者様のご家族や地区の役員、包括センターの職員の方達と意見・情報交換を行っています。会議での内容をそれぞれが共有し施設の運営や支援の質の向上に努めています。	2ヶ月毎にメンバーが参加し運営推進会議が開催されており、事業所の近況報告が主で、地域や行政との情報交換になっています。災害時の事業所の在り方や地域の協力等前向きに検討され、運営に活かされています。	今後は災害時等の事態を含め、事業所と地域の関係(消防団の協力)を形づくる取り組みの進展と、運営推進会議に対する職員の意識の向上や会議への意見の提案を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議開催などを通じ市担当者との意見交換や助言などの協力を頂いています。また市が開催する研修や講座などに積極的に参加しています。	運営推進会議を利用して、情報交換を行っています。困難事例やケアに関する相談や助言に対応して頂く等の連携を積極的に図り、サービスの向上に取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを作成し勉強会などで職員の意識を徹底している。玄関の施錠は、見守りの人員が不足する夜間のみ施錠しています。	身体拘束及び虐待防止委員会を作り、月1回検討会を行っています。特に言葉による抑制防止をはじめとした支援方法について検討し、利用者の自由な暮らしの実現の工夫に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や施設外の研修などに積極的に参加し職員の意識の向上を図っています。また入浴時、入居者様の身体に傷やあざが無いかな観察し報告をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議等において研修を開き理解と共有に努めているが活用するまでには、至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明や指針等を説明しご家族様、利用者様に納得して頂いた上で契約し入居されています。入居後も利用者様、ご家族様の意見を伺いケアに反映させています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に出席して頂き意見交換や要望を言っていただく場を設けています。またご家族様が面会に来られた時や電話等でも意見や要望を聞き反映させています。	玄関に意見箱を設置したり、家族アンケートの意見や、面会時に相談や要望が言える環境を提供しています。出された意見は職員間で話し合い、サービスの質の確保・向上に反映させるよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議にて発信の場を設け意見交換を行っています。又、朝の申し送り時、職員からの提案や意見を聞き反映させています。	月1回の定例会議で職員の意見を収集し運営に反映させるとともに、年1回個別面談で、就業環境の話し合いがされています。利用者の支援方法等は、日常の業務の中で職員の意見に随時対応しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員との面談を行い管理者が職員の実績や努力を把握するように努めている。また職員に過度の負担が無いよう勤務体系を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じた研修等を行い職員のスキルアップを図っています。また外部の研修や勉強会に参加する機会を多くしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が同業者との交流を通じ情報の共有に努めているが他施設との交流の場が少なく今後、更なるサービスの向上を図っていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境に慣れる為、入居前に本人家族様に施設見学にてコミュニケーションを図り本人家族様の思い、要望を聞き安心してホームでの生活をして頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人家族様が安心して入所出来るよう入所前から本人家族様と何度も面談を行い不安や要望等を受け止め信頼関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族様の状況等を聞き必要としているサービスを見極め本人家族様に最適なものを提案出来るように努めています。施設外サービスであっても説明、納得された上での対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当事業所の理念である自分の祖父母と思いを込めてお世話をすると共に利用者様と職員が共に生活をする事で信頼関係を築いている。また本人が得意とする事を発揮出来る環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時に、日頃の様子や本人の思い等を伝えている。また家族会や行事等にも出来るだけ参加してもらえる様に声掛けをしている。必要時には、電話にて相談し合える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や親戚の方等の訪問がいつでも出来るよう努めている。また本人との関係が途切れないよう支援に努めている。	利用者の馴染みの関係は、フェイスシートやアセスメント(生活歴)の中で把握しており、職員間で共有し支援に繋げています。かかりつけ医や美容院(店の送迎あり)に行き、家族の協力で自宅での外泊、墓参り等に出かけています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の趣味や考え方を尊重し利用者同士が良好な関係作りが出来るよう対応している。また、うまく関わる事の出来ない利用者には、スタッフが中に入り楽しくコミュニケーションをとれる様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には、情報提供すると共に退所後も家人からの相談があれば適切な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションの中で本人の思いや希望を把握するように努めている。意思疎通の困難な方には、ご家族の協力をもとに実現できるよう努めている。	利用者の思いや意向は、日常会話や所作の見守りの中で把握に努めています。意向の表出困難な利用者の場合は状態の変化に留意しながら本人本位に検討をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前より本人、家族、関係機関等からの情報を元に生活状況を把握しその人らしい生活が送れるよう支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックと心身の状態をケース記録に細かく記録し一人ひとりの残存機能を把握して能力に応じた生活リズムが送れるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、職員全員でモニタリングを行い本人、家族の意向を汲み取り現状に即した介護計画を作成している。	利用者、家族の要望を聞き取り、毎月のモニタリングで職員が気づきを話し合い、計画に反映させています。介護保険更新時に見直しを行い、利用者の状態の変化に合わせ、その都度介護計画の見直しを行う事もあります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録と別にバイタル、食事、排泄などの状況を職員が全員が把握出来るようにしている。また、毎月のモニタリングで事例などを話し合い職員間で情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院や送迎等、必要があれば柔軟に対応し支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区周辺への散歩や買物等を通じて地域の方と交流を持ち地域のイベント参加への支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人、家族との話し合いでかかりつけ医を決めています。入居前から通っているかかりつけ医を希望のご利用者には、強制せず今までの通り通院して頂いている。	本人・家族の意向を最優先し受診が出来るよう支援されており、受診の結果や服薬についても、家族・職員間の情報の共有がなされ周知されています。利用者の健康診断は、介護保険の更新時に行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師により、個々の心身の状況を把握している。夜間など看護師がいない状況の時、体調変化などがあれば電話などでも報告、相談をし適切な対応がとれるような体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関や家族とこまめに連絡をとり連携を図っている。入退院時、カンファレンスや情報収集などをしてスムーズに運ぶよう環境整備に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族様へ重度化指針の説明を行ったうえで契約をいっています。終末期が近づいた場合、主治医、家族、看護師、職員で今後の方向性を話し合い支援に努めている。	今年度の対象者はいませんが、家族へ重度化や終末期に向けた指針は、きちんと説明されています。職員も心得ており、自分たちに何が出来るかを考えて取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し常に目につく場所で貼付している。職員会議や勉強会等で知識と実践力を身につけるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を施行し緊急連絡体制や避難誘導を迅速に行えるよう毎日の防火設備の点検や避難順路を掲示することで全職員の認知ができています。	消火器の使用は全職員が出来るようになってきました。避難経路が分かるよう、通路に掲示されており職員に周知されています。窓やバリアフリーの出口が多く、避難しやすい建物です。	地域の避難場所となっていることを活かし、防火訓練などを地域の方と一緒に、運営推進会議のメンバーの協力も仰ぎながら地域の協力が培われていくことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護及び個人情報の守秘義務を守るよう徹底している。また常に人生の先輩として尊敬の念をもって心を込めて接するようにし介助の際は、プライバシーを損なわない対応を心掛けている。	利用者の呼称は「〇〇様」としており、尊敬の念をまず呼称から正しています。内部研修を定期的に行い、日常の業務の中でも職員の言動に対し管理者・職員同士が注意し合いプライバシーの確保に全員で意識し取り組んでいます。	定期的に内部研修をしていますが、職員のスキルアップの一例として外部の講師の依頼や外部研修に参加し今以上に尊重した対応に職員が一丸となって向上していくことを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が気兼ねなく職員に話が出来、自己決定できるよう環境づくりをしている。また自力で表現するのが困難な方は、表情や言動で想いを受け止められるよう接している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先させないように常に1人ひとりのペースを大切にし本人の希望や状況を判断しながらその人らしい生活が送れるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洗面、整髪、整容を行っている。更衣の際は、本人の希望を尊重し選んで頂いている。また、訪問カットの支援も行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月2回、手作りおやつを作る機会を設けていて利用者と職員が共同でおやつを作っています。また、月初めには、赤飯や月に一度、誕生日会と称して少し豪華な食事を提供しています。	外部委託ですが、手作りランチの日を設け、利用者が各自の出来る作業を行い昼食と一緒に作っています。おやつ作りも、全員が参加出来るように工夫され、食べるのが楽しくなる支援が行われています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事形態、量を提供し個人記録にて摂取量の把握を行っている。脱水にも注意を払い水分チェックや夜間の適時、水分補給を実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを働きかけている。口腔内に不具合が生じた場合、家族に相談し歯科受診を勧めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に声掛けを行い排泄リズムを整えている。また、残存機能を生かしてトイレでの排泄の自立に向けた支援を心掛けている。	夜間オムツ対応となる利用者も、日中は紙パンツにてトイレ誘導を行っています。夏は、布パンツにし失禁しなくなった事例があり、利用者の立場に立って、排泄の自立に積極的に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を確認し出来る範囲で体操や歩行訓練などに心掛けています。また食事の工夫や水分摂取量が出来るよう個々に対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は、決まっているが本人の希望や体調に合わせて入浴日以外でも入浴出来るよう対応している。	入浴日や時間を希望されている利用者はいませんが、入浴日以外でも対応出来るようにしています。シャワー浴だけをしてきた利用者は、無理に浴槽に入ることを強いることなく、利用者の習慣の継続を支援しています。入浴中に、本音でいろんな話が聞かれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の心身の状態に合わせ、日中の散歩や体操などを通じ安眠出来る環境を作っている。また、中々、入眠できない方には、一緒に話を聞いたりしながら安心して睡眠がとれるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は、看護師が行っているが服薬状況が分かるように一冊のファイルに綴じて職員全員が確認、把握出来るようにしている。また、誤薬を防ぐ為、服薬時、複数の職員による確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中から自身の役割が感じられるよう洗濯干しや掃除などをして頂いている。また、個々の能力に応じてレクや散歩など毎日が同じことの繰り返しにならないよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、施設の外を散歩したり季節毎に花見やドライブや買物などをして外出している。また、家族との外出が出来るように支援している。	「毎日運動がしたい、走りたい」との希望の利用者は、職員と一緒に走り、帰宅願望のある利用者は家族の協力を仰ぎながら、定期的に自宅へ帰りお墓参りをして頂いています。木曜には朝市に出かけ買い物を楽しまれています。散歩の時は歩行出来ない利用者も、外に出て気分転換出来るように努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る方には、希望に応じ買物、外出支援を行っている。出来ない方には、家族の了解のもとホームで管理し希望に添える支援に努めている。必要な物がある際は、家族にお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ電話の使用は、自由に出来るよう支援している。手紙については、代筆や代読のお手伝いをしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	当施設には、ジオシステムと言う24時間換気システムを取り入れ常に新鮮な空気を環境の中で生活を支援して頂いています。また、共用部分に利用者の作品や行事ごとの写真を掲示し落ち着いて過ごせるよう工夫しています。	空調管理や湿度に配慮されており、窓から入ってくる日で、時間の流れを感じられます。ソファがリビングに置かれており、自分の心地良い居場所となっている利用者もいます。利用者との共同作品の壁画で季節感を感じます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、人間関係を考慮して席の配列をしています。また、ソファを置き自由にくつろげる環境を整備しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのベッドやタンスがあるが希望により使い慣れた家具や寝具を持参して頂いている。また、清潔な生活が出来よう環境整備にも配慮しています。	備え付けのベッドやタンスはありますが、強制することなく、個人の使い慣れた物や必要な物を自由に持ち込まれ、その人らしい居室になっています。布団も持ち込みか、施設の物が選択できるようになっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立での移動や運動、移乗が安全に出来るよう手すりの設置や障害物のない環境を提供している。また、利用者が分かり易いように大きな字で張り紙等をしたりして配慮しています。		